

## 2019年度 第1回 SPring-8 ユーザー協同体評議員会 議事録

日時：2019年4月11日（木）13時30分～14時50分

場所：SPring-8 中央管理棟 上坪記念講堂

出席者：水木純一郎(会長)、足立伸一、雨宮健太、岡島敏浩、尾嶋正治\*、坂田修身(副会長)、辻淳一、野中敬正（代理（堂前和彦））、山口浩司、朝倉清高\*、有馬孝尚\*（SPring-8 利用委員会委員長）、片山芳則、岸本浩通、北川 宏\*、久米卓志\*、十倉好紀\*、西原克浩、濱松 宏\*、原田慈久（幹事）、藤原明比古(幹事)

幹事・執行部：本間穂高(副会長)、今泉公夫（SPring-8 利用委員会副委員長）、横谷尚睦\*、西堀英治\*、大和田謙二、吾郷日出夫

オブザーバー：山口 章、櫻井吉晴、大端 通、木下豊彦、富松亮介、反町耕記、伊藤博幸

事務局：坂川琢磨

※TV 会議にて出席

### 議題：

#### 1. 会長挨拶

「SPring-8 が我が国の科学を先導していく上でユーザーの活動は重要であり、ユーザーの活動の方向性を議論する評議員会の役割は重い。評議員会でより多くの意見を頂き、本年度の活動に生かしたい。」との趣旨で挨拶があった。

#### 2. 2019年度評議員紹介（資料1）

評議員の自己紹介が会場、TV 会議出席者の順であった。次いで幹事・執行部の自己紹介が行われた。

#### 3. 2018年度第3回評議員会議事録の確認（資料2）

内容確認依頼が藤原庶務幹事からあり、本評議員会の終了までに異論はなく、2018年度第3回評議員回議事録が承認された。

#### 4. 司会進行選出

昨年度当初に2年間は藤原庶務幹事が司会進行を行うことが認められた経緯の説明があった。本年度も継続して藤原庶務幹事が司会進行を勤めることが認められた。

### 報告事項

#### 5. 2018年度活動報告

##### 5.1. 行事概要（藤原庶務幹事）（資料3）

「第18回 SPring-8 夏の学校（後援）」、「SPring-8 シンポジウム 2018（共同主催）」、「第2回 SPring-8 秋の学校（共同主催）」、「SPRUC 第1回 BLs アップグレード検討ワークショップ（共同主催）」の開催報告があった。

SPring-8/SACLA 利用者情報誌向けに、田中行事幹事が執筆中の「SPRUC 第1回 BLs アップグレード検討ワークショップ」に関する報告原稿が補足資料として紹介された。

会場から資料3に記載の「SPRUC 第1回 BLs アップグレード検討ワークショップ（共同開催）」の開催日付の誤記の指摘があり、資料の日付を修正した。

#### 5.2. 研究会活動状況（原田利用幹事）（資料4）

30の研究会の内、26の研究会が研究会を開催したこと、1研究会を除いて動向調査報告書の提出があったことが報告された。また、分野融合「ナノデバイス科学」研究グループ、「実用」研究グループの研究会開催と動向調査報告提出も報告された。

#### 5.3. 動向調査報告書（原田利用幹事）（資料5）

完成した報告書が SPRUC のホームページに掲載されることが報告された。

「5.2. 研究会活動状況」、「5.3. 動向調査報告」の報告に対し質問等は無かった。

#### 5.4. 分野融合型研究活動（水木会長）（資料6）

分野融合研究開拓推進の意義について説明があった後、現在動いているナノデバイス科学と実用が今年度、来年度で終了することを受け、SPRUCとして分野融合を広げるため幾つかのアプローチを行なっていることが紹介された。具体的には、「放射光分析科学とインフォマティクスの融合」に関する分野融合の研究会の立ち上げを見込んでいるとの説明があった。併せて、現在進行している分野融合の各々の研究グループの活動についてより詳細な説明があった。

報告に対し質問等は無かった。

#### 5.5. 理研・JASRI・SPRUC 3者会合（水木会長）（資料7）

理研・JASRI・SPRUC 3者会合の目的、設置経緯等の説明、第6回から第11回までの議論内容の要約について述べられた。

報告に対し質問等は無かった。

#### 6. その他

事前に準備した項目以外に会場からの報告事項は無かった。

#### 審議事項

#### 7. 2019年度活動方針（水木会長）（資料8）

活動方針が提案された。具体的には、新しい分野融合研究の立ち上げに向けた努力を行うこと、次期計画に対するユーザーの意見を反映させる取り組みを行うこと、SACLAのユーザー協団体との統合も視野に入れ、SACLA利用委員会がSPRUCに入った形態の具体的な活動を進めること、SPRUCが情報（成果）発信を積極的に行うこと、進めてきたSPring-8-IIに向けた議

論を実際の計画に反映させていけるような SPring-8 シンポジウムを開催することである。

## 8. SPRUC 組織（水木会長）（資料 9）

SPRUC の執行部構成、SPRUC 利用委員会委員の提案があった。昨年度との違いとして、SACLA 担当副会長、秋の学校担当行事幹事の任命に言及があった。

参考資料に沿って、SPRUC 内での SACLA 利用委員会の位置付け、役割への期待、顧問会議の位置付けと顧問の名簿、代表機関と機関代表の紹介があった。参考資料に記載の機関代表者名は暫定であり今後変更の可能性があるとの補足があった。

「7.活動方針」、「8. SPRUC 組織」に関する提案が審議に付され、提案の全てが承認された。

## 9. 行事活動

### 9.1. SPring-8 夏の学校（藤原庶務幹事）（資料 10）

開催趣旨等概要の説明の後、SPRUC が後援すること等の是非について審議に付され、承認された。

### 9.2. SPring-8 シンポジウム（藤原庶務幹事）（資料 11）

今年度の SPring-8 シンポジウムの趣旨等計画の説明があり、開催の是非について審議に付され承認された。この後、開催される組織委員会（委員長：水木会長）で詳細が議論されることとなった。

また、事前にメール審議で承認され、募集が始まっている SPRUC 2019 Young Scientist Award の実施要領等の説明があった。

### 9.3. SPring-8 秋の学校（大和田行事幹事）（資料 12）

今年度 3 回目となる SPring-8 秋の学校の開催趣旨等概要の説明があり、開催の是非について審議に付され、承認された。

今年度から、学生を免除しつつ参加費 2 万円を徴収することが提案された。会場から「大学院生」は参加費免除の学生に含まれるかとの質問があり、秋の学校は大学生を主な対象と考えているが、大学院生の参加も歓迎であり参加費は免除であるとの回答があった。

最後に、企業等からのニーズのインプット依頼を含めた秋の学校への協力依頼が大和田行事幹事並びに藤原庶務幹事からあった。

## 10. 会計

### 10.1. 2018 年度決算（藤原庶務幹事）（資料 13）

収入は、概ね予算に沿ったものであった事が報告された。主な項目として、シンポジウム参加費と JASRI からの活動支援金主とする総収入や、利用者懇談会からの繰越金等について説明があった。JASRI 支援金の予算と執行額の差について、予算額の 400 万円は枠の総額であり、活動の実費分の支援を収入の決算額（未収入金）として計上したことが説明された。

支出は、概ね予算に沿ったものであったことが報告された。予算に比べ差が大きな項目として、研究会開催・分野融合 G 関係支出等が少なかったこと、秋の学校の予算超過は遠方の講師の旅費が理由であること等が説明された。

ついで SPring-8 シンポジウム 2018 の決算について、SPRUC 負担分、協同主催の JASRI 負担分に分けた資料が示された。SPRUC からの支出額約 130 万円とその内訳について報告された。

尾嶋評議員から前期繰り越し金 470 万に対応した次期繰越金の額について質問があり、藤原庶務幹事から同額であるとの返答があった。これに対し、重ねて同額である理由について質問があり、繰越金の原資は SPring-8 利用者懇談会から移管されたものであり、その性質上、「いざという支出」に備え、収入計と支出計が同額になるよう予算を運用し、支出額が収入額を超えない限り、同額を繰り越す会計を行っているとの説明があった。次いで、「いざという支出」として想定している事について質問があり、「いざという支出」に対しては、先ずは予備費から支出され、当初予算に予算立てのない年度途中で企画された行事等への支払いがそれに当たると説明された。また、JASRI からの活動支援金は毎年あるのかについて質問があり、藤原庶務幹事から、JASRI と年間 500 万円の支援に関する覚書を交わしており、特別な事がなければ毎年更新していただけると考えていること、500 万円の内上限 400 万円が SPRUC の直接支出可能分として本決算資料に記載している額、それ以外に SPring-8 シンポジウムや秋の学校のように SPRUC と JASRI の共催行事など JASRI が直接支出しているイベントもあり、今年度は 220 万円の経費負担をいただいている。トータルでは JASRI から 400 万円程度の支援をいただいております。今後、予算の種別上、JASRI の直接支出を増やす方向で運用すること等の説明があった。

審議の結果、2018 年度決算が承認された。

#### 10.2. 2019 年度予算（藤原庶務幹事）（資料 14）

2019 年度の予算案について、昨年度の実績や説明のあった行事活動計画に沿って収入と支出の予算案の説明があった。収入では「シンポジウム参加収入等」、「秋の学校参加費収入等」、「JASRI からの活動支援金」、「その他雑収入」、の合計 541 万円を計上。支出については「シンポジウム関係支出」、「研究会開催・分野融合 G 関係支出等」、「秋の学校経費」、「SPRUC 運営費」、「雑役務費」、「通信・振込手数料」、「その他経費」の合計と上記収入予算の差額を、「予備費」に計上した。「利用懇繰越金」からの執行額は 0 円で、「前期繰越金」はそのまま留保し「次期繰越金」と同額となっているとの説明がなされた。

予算案に対する質問等はなく、審議の結果、予算案は承認された。SPring-8 シンポジウム 2019 予算案も合わせて承認された。

11. 会員資格に関わる会則変更（藤原庶務幹事）（資料 15）

3 年間何も活動がなければ会員資格を失うという会員資格の期限の基本的な考え方について、藤原庶務幹事から説明と確認が行われた後、これまでに比べより明瞭にこの基本的な考え方を表現できる会則の文言の改定案が提案された。坂田副会長・評議員から指摘のあった学生の会員の表記のあり方を含めた審議の結果、提案を一部修正した改定案にて、会員資格に関わる会則変更を次回 8 月の総会で審議事項として提案する事が承認された。

12. 評議員候補者推薦（藤原庶務幹事）（資料 16）

評議員候補者のこれまでの選出方法に加え、「評議員改選時に任期切れで退任となる評議員」と「会長が推薦する者（例えば 5 名）」を評議員候補とする方向性が藤原庶務幹事から示され、この方向性に沿った SPRUC 細則第 2 章第 1 条 2 項の改定案が提案された。審議の結果、改定する事が承認された。

※評議員会後、文書の体裁等に指摘があり、「(2) 評議員候補者は、機関代表者からの推薦者、評議員改選時に任期切れで退任となる評議員、および会長が推薦する者（5 名以内）から辞退者を除き、15 名以上とする。」の内容で、改めて評議員会で審議することとした。

13. その他

会場から議案の提案は無かった。

**連絡事項**

14. 今後の予定（資料 17）

藤原庶務幹事から今後の予定が示された。

会場からの連絡事項は無かった。

**配布資料**

資料 1 2019 年度 SPRUC 評議員名簿

資料 2 前回議事録

資料 3 2018 年度行事概要

資料 4 2018 年度研究会活動状況

資料 5 2018 年度動向調査報告書

資料 6 平成 29 年度分野融合型研究活動  
分野融合型研究

資料 7 理研・JASRI・SPRUC 3 者会合

資料 8 2019 年度活動方針（会長挨拶抜粋）

資料 9 2019 年度 SPRUC 会長・副会長・幹事（案）

2019 年度 SPRUC 利用委員会名簿（案）

参考資料 SPRUC 組織図（2018.08.26 から）

参考資料 XFEL 利用研究会設置申請

- 参考資料 SPRUC の改組後の PDCA サイクルと会議の役割
- 参考資料 2018 年度 代表機関・機関代表
- 参考資料 2019 年度 SPRUC 顧問会議顧問名簿
- 資料 10 SPring-8 夏の学校
- 資料 11 SPring-8 シンポジウム  
SPRUC 2018 Young Scientist Award
- 資料 12 SPring-8 秋の学校  
秋の学校参加費
- 資料 13 2018 年度決算  
2018 年度（平成 30 年度）SPring-8 ユーザー協同体 決算書  
SPring-8 シンポジウム 2018 予算・実績
- 参考資料 JASRI との共同主催にて開催した研究会・WS・秋の学校等の  
実績と JASRI 経費負担額
- 資料 14 2019 年度予算  
2019 年度 SPring-8 ユーザー協同体 予算案  
SPring-8 シンポジウム 2019 予算案
- 資料 15 会員資格にかかわる会則変更
- 資料 16 評議員候補者推薦
- 資料 17 前回以後の行事と今後の予定